



登山月報

JMSCA 登山月報 第650号 令和5年5月15日発行



岩木山とオオヤマザクラ / 写真提供：青森県山岳連盟 服部 一雄

8月11日 みんなで山を考えよう!
 祝「山の日」
 全国「山の日」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

ボルダー&リードジャパンカップ2023 (BLJC2023) 開催	2
スキーマ 2/27~3/5 世界選手権	4
Enjoy Climbing	7
山口県山岳・SC連盟 自然保護委員会のSDGsな活動	8
2023年度S C 部全国連絡会議報告	9
寄贈図書	10
第19回 山岳遭難事故調査報告書 その5	11
JMSCA、表紙のことば、編集後記	13

No.650

ボルダー&リードジャパンカップ2023 (BLJC2023) 開催



男子表彰



女子表彰

2024年のパリオリンピック出場者がはじめに決まるのは今年8月の世界選手権である。本大会は世界選手権への出場権を得ることができる最後の国内大会であり、オリンピックを目指す日本のトップ選手がすべて倉吉に集結し、熱い戦いを繰り広げた。

会場： 鳥取県立倉吉体育文化会館／
倉吉スポーツライミングセンター

期日： 4月8日(土) 男女予選
4月9日(日) 男女決勝(予選上位8名)

参加選手： 男子32名、女子33名

競技施設： ボルダー壁(仮設壁、体育館内)
リード壁(屋外)

【競技方式】

パリオリンピックフォーマットの競技方式で実施した。予選、決勝ともに、ボルダーは4課題、リードはオンサイトによる1ルートで争う。ボルダー、リードの結果に応じたポイントが与えられ(それぞれ最大100ポイント)、その合計ポイントにより順位が決まる。

【男子】

予選のボルダーに関しては全完登0名であったが、決勝進出8名に残るためには2完登以上を必要とした。予選リードの完登が8名にのぼったことから、結果的にボルダーの成績が予選順位に大きく影響した。BJC 1位の榑崎明智、同3位の榑崎智亜はいずれもボルダーが2完登にとどまり、予選9位、10位と決勝進出を逃した。

決勝のボルダーでは、3完登とゾーン2を獲得した緒方が84.6ポイントで頭一つリードした。2位グループは74.8～74.3ポイントに安楽他、5名がひしめく混戦となり、優勝の行方はリード次第となった。リードは68ポイント目がキーとなった。68ポイントを超えたのは3名であり、そのうち、安楽は最後の右手、左手と続くごく悪いカチに耐えてトップを取り、唯一の完登、合計174.8ポイントで優勝を決めた。2位には、リードを得意とし、92ポイント目を押さえた百合草、3位にはボルダー1位の緒方が入った。



ボルダー予選の様子



リード予選のようす

■BLJC2023 男子成績

順位	名前	所属	生年	予選			決勝			
				順位	ボルダーポイント	リードポイント	合計ポイント	ボルダーポイント	リードポイント	合計ポイント
1	安楽 宙斗	千葉県立八千代高等学校	2006	2	84.3	100	184.3	74.8	100	174.8
2	百合草碧皇	早稲田大学	2002	5	64.2	96	160.2	74.5	92	166.5
3	緒方 良行	B-PUMP	1998	1	84.7	100	184.7	84.6	64.1	148.7
4	通谷 律	佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟	2006	3	84.1	100	184.1	74.7	64	138.7
5	藤井 快	無所属	1992	4	83.9	100	183.9	74.5	64	138.5
6	吉田 智音	摂南大学	2004	7	58.9	100	158.9	44.6	92	136.6
7	井上 祐二	大阪府山岳連盟	1995	6	63.7	96.1	159.8	74.3	57.1	131.4
8	小西 桂	無所属	2001	8	59.3	92.1	151.4	23.8	64	87.8

■BLJC2023 女子成績

順位	名前	所属	生年	予選			決勝			
				順位	ボルダーポイント	リードポイント	合計ポイント	ボルダーポイント	リードポイント	合計ポイント
1	森 秋彩	茨城県山岳連盟	2003	1	99.3	96	195.3	79.2	100	179.2
2	松藤 藍夢	日本大学	2003	6	99.7	60.1	159.8	99.8	39.1	138.9
3	野中 生萌	無所属	1997	3	99.9	80.1	180	84.7	48.1	132.8
4	伊藤ふたば	デンソー岩手	2002	8	99.8	42.1	141.9	79.6	48.1	127.7
5	小池 はな	川口市立高等学校	2005	7	64.9	84.1	149	59.3	64	123.3
6	中川 瑠	日本大学	2004	2	99.4	84.1	183.5	58.9	60.1	119
7	久米乃ノ華	日本大学	2003	4	99.7	80.1	179.8	53.5	51.1	104.6
8	永嶋美智華	静岡県山岳・スポーツクライミング連盟	2006	5	84	84.1	168.1	44.7	48.1	92.8

【女子】

予選のボルダーは、4完登して99.9ポイントを獲得した野中を筆頭に4完登の8名が99ポイント台を獲得した。一方、予選のリードではポイント差が大きくなり、リードで上部に達することが決勝進出に必要とされた。予選1位は、リードで一人抜きで高度に達した森がとった。また、伊藤はアテンプト差による0.1ポイント差で8位となり、かろうじて決勝に駒を進めた。

決勝では、ボルダーで4完登した松藤が99.8ポイントで先行し、3完登の野中、伊藤、森が追う展開となった。決勝のリードでも森が群を抜く力を見せつけた。大会の最後に登場した森は、他の選手が越えられなかったポイントを次々と突破しての完登で、圧巻の優勝劇となった。2位はボルダー4完登で合計138.9ポイントの松藤、3位にはボルダーで松藤に次ぐ84.7ポイントを獲得した野中が入った。

【大会結果より】

J C、L J Cで上位だった選手が必ずしもボルダー&リードで上位に食い込める訳ではなく、一日でボルダーとリードの2種目をする事の難しさを痛感した大会であった。その一方、安楽、森が昨年11月のコンバインドジャパンカップ2022に続いて2連覇するなど、2名の複合種目への強さを際立たせる大会結果となった。日本代表に決まった選手が8月の世界選手権で活躍してオリンピック出場権を得て、さらにオリンピックでメダル獲得することを期待したい。

【競技運営】

複合の大会としては、男女合計65名とこれまでの最大規模となり、時間の制約上、予選のボルダーとリー

ドをそれぞれ男女同時で行った。ボルダーについては、例年実施しているボルダーユース日本選手権(B Y J C)と同規模の仮設壁を作って実施した。また、リードは、常設の屋外壁(幅10m、高さ15m)を利用した。幅広の面を存分に活用し、手数が多い、クライミング要素が詰まった好ルートによる競技を行うことができた。予選の初日は昼まで雨がぱらつき、やや心配させた

が、午後のリードが始まる前から好天となり、結果的に天気に恵まれた大会となった。セッターによる絶妙なセットと世界レベルの各選手のパフォーマンスにより、来場した多数の観客にとって見応えがあり、クライミングの醍醐味を存分に楽しむことができる大会となった。

最後になるが、本大会開催に向け、準備期間が非常に短く、地元の皆さまにはご負担をおかけした。しかし、B Y J Cの開催などで培った大会運営のノウハウのお陰で無事大会を実施することができた。サポートしてくださった鳥取県や倉吉市をはじめ、地元スタッフの献身的な協力に感謝申し上げたい。

(BLJC 2023大会副実行委員長 山田佳範)



優勝した安楽宙斗



優勝した森秋彩

スキーモ 2/27~3/5 世界選手権

世界選手権報告

小田部拓

2/27(月) ~ 3/5(日)。スペイン(ボイ・タウル)で開催された。

以下大会スケジュールと日本選手の結果と主な海外勢のタイム比較です。

■スケジュールと結果

2/27(月) 開会式

2/28(火) スプリント

男子シニア

島徳太郎 27位(予選タイム2分:54秒)
平林安里 53位(3:20)
遠藤健太 65位(3:37)
藤川 健 72位(4:07)

※優勝 カラドナ・コル,オリオル(スペイン) 2:44

男子U20

宮下 環 30位

※中国 24位(予選タイム2:58)

30位より上位は決勝ラウンド進出

島選手リザルトは準々決勝着順

女子シニア

滝澤空良 30位(4:01)

上田絢加 31位(4:02)

古田紗恵子 42位(5:03)

池田美貴 43位(6:04)

※優勝 シニア ジャグレチコバ選手(スロバキア)

30位より上位は決勝ラウンド進出

滝澤選手リザルトは準々決勝着順

女子U20 1位 中国

女子U18 1位 スペイン

小林華蓮 17位

3/1(水) パーチカル

男子シニア

島徳太郎 44位

松本良介 56位

小寺教夫 68位

男子U20

宮下 環 31位

1位 アンドラ選手

女子シニア

田中友里恵 28位

上田絢加 33位

白井なつみ 34位

女子U18

小林華蓮 20位

1位 中国選手

3/2(木) チームレース

男子シニア

藤川・小寺組 27位

遠藤・松本組 28位

3/3(金) 休養日

3/4(土) インディビジュアル

男子シニア

遠藤健太 59位

藤川 健 61位

平林安里 62位

男子U20

宮下 環 31位

女子シニア

滝澤空良 30位

白井なつみ 31位

堀部倫子 DNF

3/5(日)

ミックスリレー(男女各一名)

平林・田中 20位(33:47)

遠藤・上田 24位(36:49)

※優勝 フランス 26:46

19位 中国 33:05

【ワールドランキング】

1位 : イタリア

2位 : スイス

3位 : フランス

4位 : スペイン

5位 : 中国

17位 : 日本

■ Individual



© Kurahashi Toshiyuki



© Kurahashi Toshiyuki

松澤 幸靖

今季はSKIMO世界選手権のあるシーズンであり、オリンピック競技となった今、昨年11月から始まったばかりの強化の成果はいかばかりか？

そして、中国をはじめ、アジアでの立ち位置確認も行うことができる大切なシーズン後半の大会であった。

INDIVIDUAL / SPRINT / MIX RELAYという3つの種目を振り返りながら、今後の対策と合わせ考えていきたい。

2月中旬にヨーロッパで再会した時には、シーズンの前半から比べると日本選手の登りと滑りの技術においては順調にトレーニングをしてきていると感じた。島選手の登りでの動き、女子の田中選手の滑りに関しては、その中でも昨シーズンとは大きな違いが感じられ、選手全体のトランジットに関しても、まだまだ改善の余地はあるものの、確実な進歩が見受けられた。

【Individual】

世界選手権前のイタリアのW-CUPでは初日にIndividualからはじまったのだが、2026年の種目ではないため、オリンピック強化とは別に考える必要はあるものの、ヨーロッパでの上位の中で長く活躍する選手は、Individualも強い選手も多く、それら選手の動きや順位を見ながらこの後の世界選手権の活躍を想像することができる。

日本選手もVal Martelloの自然の中でIndividualを戦うことは、世界選手権に向けても多くの感覚を得ることができると考えていた。

トップのタイム1:31:12で、島が2:05:46トップと34.33秒差で61位。

10位のタイム1:36:00で、W-CUPでこの種目で50位に入る為には、トップから約20分以内でゴールする必要がある。

世界との本当の壁を知るにはIndividualという物差しは必要だと思う。

女子トップが1:39:13。そして日本トップが2:23:19。その差は44:06。10位のタイム1:47:09。

女子の場合20分遅れまでを目標で20位。ここを今後のIndividualでの目標としたいが、1時間半を戦うようなトレーニングは必要ないにしても、自然の中で40～60分のショートコースを設定し、Individualトレーニングを積むことは、SprintにもMixRelayにも効果はあると考える。なぜなら、オリンピック種目となっているSprintやMixRelayにおいて、ゲレンデ内のセットや斜面状況は徐々に難易度を上げていくことが容易に予想される。

日本のゲレンデでこのような条件を作り出すことは難しく、普段のゲレンデトレーニングに加えて自然環境にそれらを求めた方が良い場合も多い。

世界選手権においても日本のトップタイムと世界では男子の遠藤で35分、女子滝沢で33分の差であったので、わずかに縮まった。

【Mix relay】

イタリアW-CUPでは、島徳太郎&田中友理恵、遠藤健太&上田絢加、小寺教夫&滝沢空良という組み合わせで臨んだ。日本チームのトップで20位。中国トップとは50秒差である。少なくとも3分は縮めないとファイナルAには残れない。種目的にMixはシーズン前はSprintに近いと考えていたが、実際には男女でSprintの倍の距離を一人が2回走ることになる為、6分～8分程度のインターバルトレーニングを取り入れながらタイムトライアルを行い、選手の強化と選定をしていく必要がある。

■ Team



【Sprint】

予選→準々決勝→準決勝→決勝と、多い場合、決勝まで3分のコースを4回走らなければならない。次までの出走の間、筋疲労を少なくし、または散らすことで最後まで持続性のあるコンディションをどのように維持していくか、コンディショニングの専門家ともその方法を探っていければと考える。

スイス、フランス、最近ではスペインチームまでもが、次の出走までの間に自転車をほぼ無理やり漕いでいた(漕がされていた)ことは、筋疲労や乳酸の蓄積を散らすことになるのかどうかは非常に興味深い部分ではある。JRの小林/宮下はスプリントで35秒から40秒の差がある。

この差は、3科目(登り・滑り・トランジット)において全てに課題があるが、日本のゲレンデでは決して身に付けることのできない自然に近い複雑な地形や雪質といったものがヨーロッパのゲレンデ内に簡単に見つけることができる。

ジュニアにおいても可能な限り自然に近い環境の中でトレーニングを積むことは重要な意味があるのではないかと感じた。左右に段差の大きいレーンや、うねりの大きな斜面など。また、コースのセット一つとっても、急な斜面での角度のきついキックターンや、段差の大きな良く掘れたような斜面など。あえて作ることも可能だが、白馬などゲレンデ脇の自然のなかに見出すことができ、シーズンオフやインなどにそういった場所でのトレーニングの機会をより多く作っていききたい。中国チームも、中国は人口降雪のフラットな所ばかりである為、イタリアに拠点进行を設け、より複雑な斜面でのトレーニングが行えるようにしているものと思われる。日本チームも滑りに関しては、フラットな斜面での技術的な理解を基礎として、より複雑な斜面に応じられるようトレーニングを積まなければならないだろう。

■ Vertical



トランジットに関しては0.5秒でもはやくするための工夫は部分の作法だけでなく、スキー、ブーツ、ザック、ワンピースといった用具へのマッチングは欠かせず、それぞれを再度早めに点検し、ウイークポイントを見つけ、夏シーズンからの修正を個々に行えるよう急ぎたい。

今後のトレーニング計画を大まかにすると

■ 5月・6月：雪上トレーニングの中でウイークポイントの確認

以下は可能であれば同一場所での拠点強化ができるようになるのが理想的である。

■ 6月・7月・8月：体力測定(個人検査)及び走り込み・ローラートレーニング・自転車トレーニングなどの夏季トレーニング

■ 9月～10月：ウエイトを含めたシーズン前トレーニング走り込みなどにストックも多く取り入れ、SKIに近い動きのトレーニング

■ 11月～海外での雪上トレーニング

以上を選手と行いながら、マテリアル整備やトレーナーを含むようなチーム体制を徐々に整えて行けるようにしなければならない。

また、今後のジュニア育成を考える上で、私も大切と思っていたことを、フランスのトップ選手が日本のジュニア選手である笹川勇太に宛てたメッセージの中に見ることができたので、その一文を紹介しておきたいと思う。

I'll give you some advice.

Of course you have to work on uphill. But you're young.

You have to pay attention to your body. It's our working tools.

So you have to take advantage of your age to work a lot on your ski downhill.

Also transitions. But the downhill is very important before working to go quickly uphill.



【連載6】 横山勝丘

K7南西稜の敗退を決断する

狭いテントの中で、今後の予定について話し合う。すでに登攀開始から四日がたった。もう山頂までそれほど遠くない。とはいえ、現実的に考えたら明日中に山頂を踏むのは厳しいだろう。二日目の午後に登頂したとして、ここからの下降にはどう頑張ってもプラス丸一日以上かかる。三日後にはベースキャンプを撤収して帰路に就かなければならない。スケジュールだけを考えるとその時点で詰んでいる。だけど、食料だけは食い延ばせばあと三日くらいはなんとかかなりそうだった。

この先の行程を考えたら、好天さえ味方に付けければ登頂の可能性は充分にあると見積もっていた。ベースキャンプで待つ仲間には申し訳ないが、彼らを待たせるか先に帰ってもらってでも、今は上を目指すべきなんじゃないか？ リエゾンの言ったことは、この状況では無視してしまえばいい！

登頂に対して前向きな思いを抱きながら、寝袋に入る。その晩、テントを叩く雪の音で目を覚ます。明け方につれ、その音は増すばかり。冷静に考えれば考えるほど、このまま突っ込んだらドツボにハマるんじゃないかとの心配が膨らむ。さらには、仲間の予定も全て狂わせてまで私達のエゴを通すことに申し訳なさを感じ始めた。「俺達は平気だから先に下山しといて！」と言える手段もない。

夜が明け、まずは持参していたinreachを使って天気予報をチェックする(時代も私達も変わったな〜)。それによれば、今日一日を含むこれから三日間は雪とのこと。そんななか本当に山頂を目指すのか？ それから谷の中を降りることができるのか？ 成功への選択肢がみるみるうちに限定されてゆく。雪は降り続ける。

いくらかの葛藤と議論はあったが、私達は下降を決めた。私個人の中では、夜中の段階でほぼ結論は出ていたと思う。朝チェックした天気予報で、その思いは確固たるものになった。そもそも、どうやっても止まらない咳には辟易し、体力を削られていた。かろうじて繋がっていた緊張の糸は、雪の音にあっけなくも崩れ去った。

とはいえ、そんな精神状態で下降を始めることは自殺行為に等しい。もう一度集中力を高めて、氷河までの2000メートルを無事に降りきることに全神経を注がなければならない。

頭上のセラックからの落水に怯えながらガリーを下降する

私が先に行く。傾斜の強い岩壁帯を降りるぶんには、さほど問題にはならない。ギアをセットして強固な下降支点を作るだけだ。北のガリーに入ってからが大変だった。柔らかく雪のような氷に下降支点を作るのは一筋縄ではいかない。頑張ればダウンクライミングで行けるか!?

とも思ったが、時折雪の中にポツカリと空いた空間に足を取られ、危険極まりない。否応なしに、懸垂下降となる。下降はなにひとつ簡単ではなかった。異様に生あたたかい空気が山を包んでいる。降り続く雪は湿り気を帯び、ジャケットはみるみるうちに濡れてゆく。頭上にそびえる不安定なセラック、そしてそこから不規則に落ちてくる氷塊が生み出す不気味な脅威。気の休まる暇は一瞬たりともない。結局、まったく安心のできない懸垂下降は最後まで続いた。

その日の夕刻、スノーバーを1本埋めただけの空中懸垂で、石ころがゴロゴロ転がる緩傾斜帯にたどり着いた。雪のない平らなテントサイト。水も取れる。歳のせいか、久しぶりすぎるヒマラヤのせいか、それともあのいまいましい咳のせいか、いずれにしても僕の疲労は想像を越えていた。それでも、良い集中力を保ちながらここまで降りてこられたと思った。まだまだ気は抜けないが、明日のうちには氷河に降り立てるだろうか。

翌日も朝早くから行動を始めた。ガレの斜面を歩いて下り、最後は岩のガリーを懸垂下降で10ピッチ続け、昼過ぎにようやく安全圏の氷河に降り立つことができた。見上げる山頂は薄い雲に覆われている。予報通りの悪天候ではなかったけれど、雪は降っている模様だ。あの場所に残って登り続けていたら？ と思うと、やっぱり戻ってきて良かったのだと納得できた。

ベースキャンプに戻ると、仲間の三人が出迎えてくれた。登頂できなかった悔しさや、無事に戻ってきたことへの喜びはなく、ただ静かにこみ上げる安堵感と仲間の存在の暖かさに身を委ねていた。

翌日の早朝には、早々とバックキャラバンに就いた。片付けはとても難儀だったし、歩くだけで辛かった。いつもだったら、成功しても失敗しても、何度も後ろを振り返って山を眺めては感慨に耽るのだけど、今回は振り返ることすらなかった。山のことを考えるのも論外で、ただ黙々と歩を進めていただけだ。いつもだったら二日かけるフーシェまでのバックキャラバンを一日で終わらせた。



本当だったらここで一泊するはずだったが、翌日からはイスラム教のお祭りが始まって道路が閉鎖されるというので、さらにフーシェからスカルドゥまでの四時間のジープ移動もこなした。夜遅くにスカルドゥの街の明かりが

見えてきた。

お祭りに備えてか、異様なまでにヒソリとした目抜き通りを車で通過し、見慣れた宿のベッドになだれこんで、ようやく長い一日が終わった。

山口県山岳・SC連盟 自然保護委員会のSDGsな活動

県内の登山人口は、若者のアウトドア志向もあり少しずつ増えているようです。しかし、最近の若者は、会やグループに属しての活動が苦手な傾向にあり、また、他県と同様に、会員の高齢化の波が押し寄せているのが現状でしょうか。

登山は自然をフィールドにはしていますが、自然保護となると具体的な活動に繋がりにくい面があり、悩ましいところです。

さて山口県岳連では、十数年前から「陶ヶ岳清掃登山」と銘打って、年一回（6月）ではありますが登山道や周辺の整備活動を実施しています。陶ヶ岳は瀬戸内側の県中央に位置する300mに満たない低山ですが、連山で岩場もありハイカーやクライマーにも人気の山であります。

清掃作業の日には、各会から毎回総勢70名程度の有志の参加があり、陶ヶ岳の縦走路を含む何本かある登山道や水場、山頂前の広場などを各会で分担して実施してきました。そして、この活動は年々盛り上がりを見せています。

半日の作業ではありますが、毎回参加者の実状に応じて、登山道の整備や水場の手入れ、山頂前広場での草刈り機を使った作業などを行ってきました。また、石垣に生えた草木の除去には、クライマーがロープを使う体を張った作業も行っています。結構重労働ですが、皆で作業を楽しんでいます。

また清掃活動後には、広場で昼食を摂りながら、各会の情報交換や交流も行なっています（ここ数年は、コロナ禍もあり実施出来ていないのが残念です）。

そして、この活動を毎回支援され、日程調整や募集、当日の采配を引き受けて下さる皆さんには、本当に感謝しています。近年は、季節を問わずこの山を愛して止まないハイカーが、自主的に陶ヶ岳周辺の山の整備活動をされている姿も見受けられるようになりました。活動が根付いていくのが感じられるこの頃であります。

県岳連には、自然保護委員というグループがありますが、個人レベルでは活動しているものの中々全体を通しての活動になっていないのが実情です。そんな中で、県内の各山岳会の自然保護の横のつながりを強化したいと、昨年自然保護Grのネットワークを作りました。地域の自然保護活動などの情報があれば提供して、メンバーと情報共有します。また、会に持ち帰っていただき、興味のある方がおられれば活動に参加いただいています。まだ、立ち上げて日が浅いので、情報提供がほとんどですが、地域の自然保護活動にも参加をしたりして、少しずつ輪が広がりつつあります。

県岳連としては、今後ともいろいろな活動を継続させるとともに、活動を通じ裾野を広げてゆきたいと思っています。

（山口県山岳・SC連盟 自然保護委員長 米光 伸行）

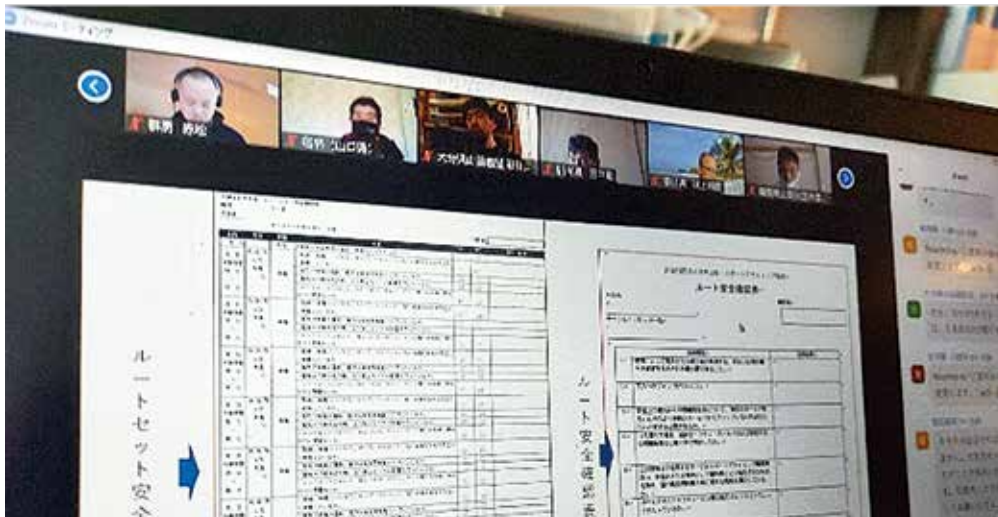


石垣手入れ



登山道補修

2023年度S C部全国連絡会議報告



47都道府県岳連／スポーツクライミング協会(以下「PF」と)とJMSCAスポーツクライミング部との情報交換の場として毎年開催される「SC部全国連絡会議」(以下「連絡会議」)が、新年度早々の4月1日(土)WEBにて開催されました。

今年度の連絡会議には、ガバナンス委員会、アンチ・ドーピング委員会、競技委員会、SC指導委員会、技術委員会、アスリート委員会、国体委員会が活動報告し、PFの皆さまとの意見交流が行われました。連絡会議は、途中数回の休憩(ネット環境の不具合などもあり)をはさみながらコンパクトに行われました。ご参加いただきました皆様に感謝申し上げます。

47PFのうち、45PFより出欠のご連絡があり、当日に予選会開催や代理出席困難などとして、最終的には36PFの参加で連絡会議は、百瀬恭平競技委員会副委員長の進行で始まりました。

恒石直和ガバナンス委員長から、JMSCAにおける諸規程整備や各種相談、処分の必要の可能性がある事案への対応、4年に1度の「ガバナンスコード」の適合性審査対応への関与の他、義務研修の実施状況や検討事項等について報告がありました。

藤江理枝SC指導委員長からは、JSP「公認スポーツ指導者資格義務付けへの対応(達成目標年度)」について、令和4年度の公認スポーツ指導者養成講習会で、121名が新規の指導者となる予定と報告がありました。また、本講習会は以前より受講資格年齢を引き下げ、集合講習時間が短縮にされ、受講も容易となりました。引続き養成を進めていくので、詳しくはお問合せください、とのコメントもありました。なお、JSPは「日常的な指導の場」においても、コーチなど指導する者は

「公認指導者資格保有者が望ましい」とするなどの考え方を示している、と説明がありました。

杉本怜アスリート委員長より、他の委員会との連携を図り、昨年度は強化、競技委員会、今年度は技術委員会とのコミュニケーションを開始する予定であること。また、ルート・セッターのみなさんとの交流や、アスリート委員がリード、ボルダー種目に偏っているのでスピード種目、パラクライミングアスリートとの連携など広く図っていききたいと報告がありました。

西原斗司男国体委員長からは、「国体名称」が来年の第78回大会(佐賀県)から「国民スポーツ大会」になることに伴い、国体委員会名称も「国民スポーツ大会委員会」(略称「国スポ委員会」)への改称の方向であること、またJSPへ要望書を提出している「ボルダリング競技」が「ボルダー競技」へと改称される見込みであることなどの報告がありました。

また、「国体ブロック大会における本大会出場チーム決定方法に関する規定」策定によるブロック大会での成績集計支援のためのシステムの導入や、47都道府県PFに、「一律10万円」の国体予選会補助金が支給され、PFを支える姿勢が伝えられました。支給方法等は、今後事務局から連絡される旨補足がありました。

百瀬競技副委員長から、JMSCA競技規程をIFSC競技規程に準拠した規程に合わせていること、また、IFにおける競技役員名称、例えば「テクニカル・デリゲイト」「スポーツマネージャー」「メディアマネージャー」「ベニュープロデューサー」などの役割と、国体競技役員に置き換えた場合の例などの説明が行われた。

村岡正己SC部長／競技委員長からは、IFSC Organizer Handbook 2023「安全管理」ポイントから、競技会開

催においては「大会運営マニュアル」の整備が重要で、特に選手、コーチをはじめ観客の避難経路、事前に消防署関係者との調整など近々開催される競技会のマニュアルを紹介しながら、詳しい説明と安全確認の重要性が呼びかけられました。さらには、関係官庁と調整がされ了解があったとしても、「事故が発生すればその責任は問われる」こととなるなど、細心のマニュアルづくりと情報共有が重要とのコメントがありました。

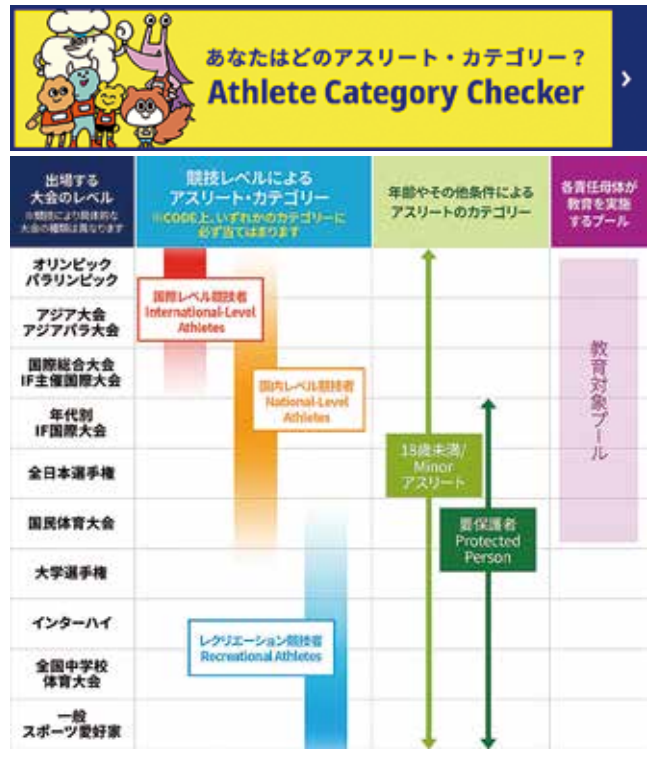
事前に配布した、「JAPAN GAMES有明パーク」についても触れ、これからのスポーツの視点が大きく変わってくる可能性があること。有明パークでは、ボルダーをはじめバーチャルスポーツやパークールなどが体験できるプレーコーナーも設置されていたこと。

今後は、全国展開で「スポーツはオモシロい」を体験できる仕掛けを計画してこと。この「JAPAN GAMES」は、国体や全国スポーツ少年大会、日本スポーツマスターズが連携、協同を図り新たな在り方を創造することになり、次代のスポーツは、大きく変わろうとしていること、などを示唆しているとの見方をしました。

角田元アンチ・ドーピング委員長からは、世界アンチ・ドーピング機構(WADA)の規程(Weda Code)の下に8つの国際基準が定められ、その遵守が義務付けられていること。今、WADA(JADA)からは競技レベル、年齢や障がいにもとづく「アスリート・カテゴリー」の確定を求められていることなどが報告されました。なお、国体本戦参加の場合「AD教育受講」が参加資格となってくるので、注意が必要であることも説明がありました。

山本和幸技術委員長からは、令和4年度審判員認定研修受講者の「審判員認定」は、4月常務理事会への承認後通知する予定であるとの、報告がありました。

審判員と監督の関係について事前にご質問がありました。詳しくは、事前配布資料「国体競技規則集」(131P:審判員選考規程)をご参照ください。まずは、国体



監督を先に決定していただき、審判員の配置等をご検討いただければと思います。また「スコアラー」での関わりは可能ですので、その点もご検討ください、と助言がありました。

その後、若干の意見交換が行われました。クライミング・ジムとPFとの関係については、複数の強化を担うジム関係者からの発言もありました。JMSCAとしても、重要な課題であると認識いたしました。国体規則集の、JMSCA HPへの掲載要望が出され、掲載することで調整している旨回答されました。ルート・セッター養成についても質問があり、例年12月高校選抜大会後に開催している旨報告されました。最後に、今年度国体が開催される鹿児島県連盟から「リハーサル大会参加」「本大会の案内」などが呼びかけられ、連絡会議は終了いたしました。

ご参加いただきました、各連盟の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

(記録: 国体委員長 西原斗司男)

寄贈図書

独立行政法人日本スポーツ振興センター	ハイパフォーマンスセンター(HPSC)広報誌「HPSCニュースレター」2023 Vol.37	広報誌	河北新報社 東京支社	掲載誌 若手選手伊藤ふたばさん記事 4/9, 10 2日間	
大阪府立体育会館	「季刊 府立体育会館」No.144	季刊誌	廣川健太郎	「アルパインクライミング ルートガイド 北アルプス編」	寄贈本
中華民国山岳協会	「中華山岳」季刊 291	会報	日経新聞 樋 正人	4/14付 夕刊紙 安楽選手掲載	
(公財)笹川スポーツ財団	「スポーツ歴史の検証」(2022年度報告書)	寄贈本	長野県大町市 市立大町山岳博物館	「研究紀要」第8号	刊行物
株日本運動具新報社	スポーツ産業新報 No.2393	新聞	(公財)大崎企業スポーツ事業研究助成財団	「企業スポーツ 2023Spring」	会報
(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No. 540	会報	山と溪谷社	新刊のお知らせ「奥多摩・高尾 500Km」	刊行物
(一社)埼玉山岳・スポーツクライミング協会	「SMSCAnews」No.77	会報	(公財)埼玉山岳スポーツ協会	「スポーツ埼玉」Vol.298	会報
常北山水会山岳部	部報「山水」No.48	会報	三重県山岳・スポーツクライミング連盟	「岳連創立75周年記念誌」3冊	
国立登山研修所(独立行政法人日本スポーツ振興センター)	「登山研修 VOL.38-2023」2冊	寄贈本	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」4月号 第501号	
(公社)日本スカッシュ協会	「SQUASH Vol.92 2023春」1冊	季刊誌	全国公益法人協会	「公益・一般法人」No.1069	専門誌
岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会	「令和4年・山岳白書」2冊	寄贈本	(一社)千葉山岳・スポーツクライミング協会競技委員長有地	「都道府県大会報告書」一式	
日山協山岳共済事務センター	「日本の山旅 世界の山旅」1冊、「登山部報 No.66」2冊	会報	三峰山岳会	「岩つばめ」No.370	会報
いちご会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員事務局	とちぎ大会に係る報告書 1冊(記録映像DVD付)		株日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」No.2395	新聞
株ネイチャアエンタープライズ	「岳人」春山 No.911	情報誌	東京大学山の会	創部100周年記念誌「山と友 III」	寄贈本
日本山岳文化学会	「日本山岳文化学会論集」第20号		(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」2023-4APR. No.49	冊子
(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.398	会報	東京野歩路会	「山嶺」Vol.99 No.1118	会報
(株)山と溪谷社	「山と溪谷」4月号 No.1063	雑誌	株タウンニュース社 八王子編集室	「4/27号 タウンニュース」八王子 Vol掲載	
株タウンニュース社 八王子編集室	掲載紙「タウンニュース」No.328」		愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第448号、「やまびこ」第205号	会報
株日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」No.2394	新聞	おいらく山岳会	「山行手帖」No.761/23. 5	会報
(公社)東京都山岳連盟	とがくれん通信 2023年1月号	会報			



3. 傷害部位から見た「滑落」の特徴

「滑落」は926人を記録し、死亡率も高く、78人が記録されている。図27に傷害部位を示す。

「滑落」の傷害部位の順位の特徴は、上位に足首、膝、下腿と脚部のジョイント側から始まるが、胸、腰、そして頭部が上位に現れる事である。一方、転倒で2位であった手首は下位にまで下がる。

このことから事故時の動作を推測すると、手による防御動作がとれていないケースが多いと考えられる。「滑落」の定義でもある氷雪斜面を滑り落ちるようなものであるのなら、ピッケルによる停止もありうるが、土砂／岩石斜面では防御も難しく、瞬時の出来事で、防御できないまま落下するように推定している。また、転倒(図25)では、殆ど見られなかった頭部、頸部、胸部、腹部などに広範囲に傷害部位が多数現れることが、転倒との死亡率の差となって現れていると考えている。

転倒同様、滑落による死亡者の傷害部位を図28に示す。転倒同様、頭頸部に大きな負担をかけており、如何に頭頸部の傷害が死亡率を高めているかを表す証拠事例となっている。

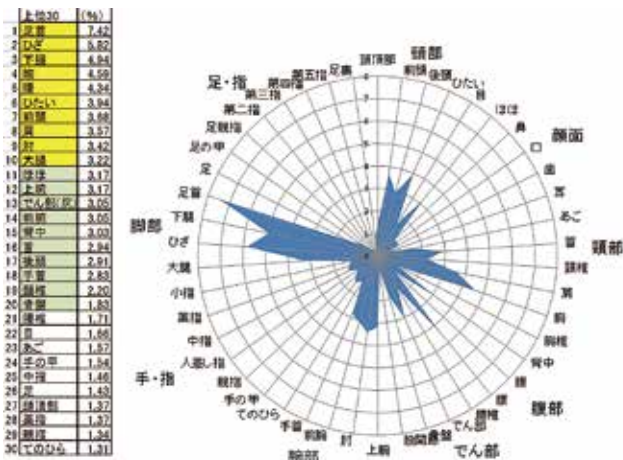


図27 滑落による傷害部位

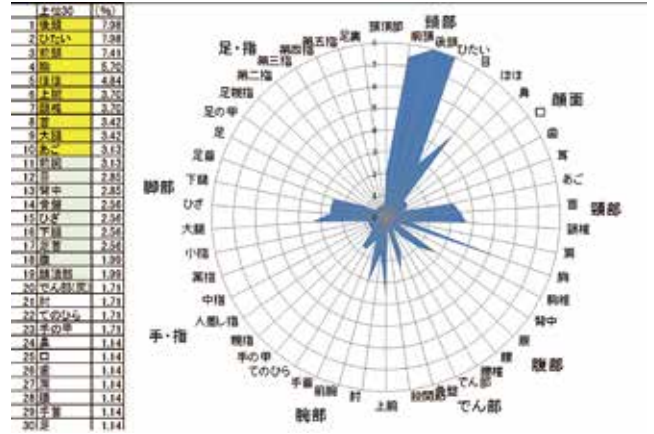


図28 滑落による死亡者の傷害部位

4. 傷害部位から見た「墜落」の特徴

墜落は267人と少ないが、死亡率が高く12人記録されている。図29に傷害部位を示す。

その特徴は、1位は足首、2腰、3背中と続く。上位に腰がくるのは、一般に言われる2タイプの墜落損傷部位が参考になる。①足から着地すると(踵骨骨折、下腿骨骨折)が発生し、腰から着地すると(骨盤骨折 / 腰椎圧迫骨折)が発生すると言われている。従って、腰にくるのは着地の違いによって生じたかと推定している。

なお、墜落による死亡(図30)は滑落、転倒と同様、頭部、頸椎、胸などに集中した結果が得られた。

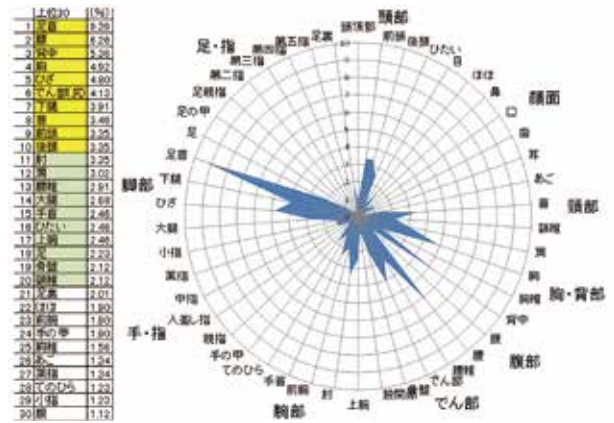


図29 墜落による傷害部位

既に報告したように「一瞬の事故分析の難しさ(表9)」では、I氏の墜落事故について紹介した。

図30は墜落事故の傷害部位にI氏のデータを重ねたものである。足首、膝などの傷害が少なく、頸椎の損傷が著しいことを除くと、殆ど一致する。

この違いは、I氏が墜落したとき、上半身左後肩の方向から着地していったと推定すれば、ある程度理解できる。また、14箇所もの傷害部位を負ったにも関わらず生き残ったのは、

傷害部位の分散で頭部への応力集中が避けられたと解釈できる。図31は墜落死亡の部位である。

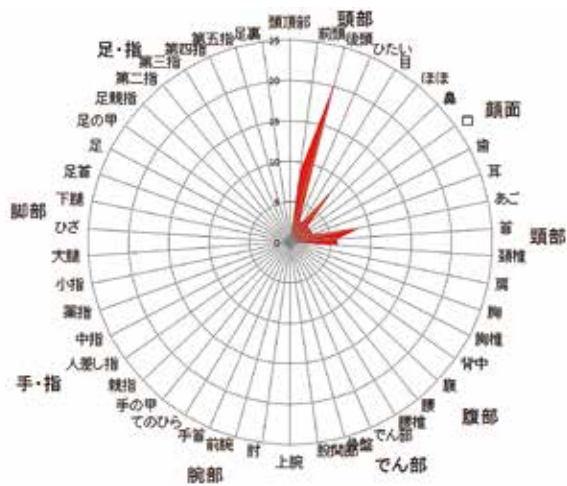


図31 墜落死亡時の部位

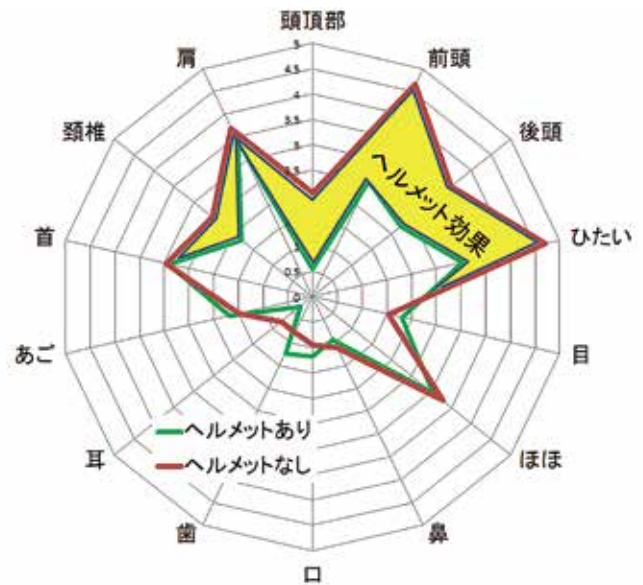


図32 ヘルメット効果(滑落時)

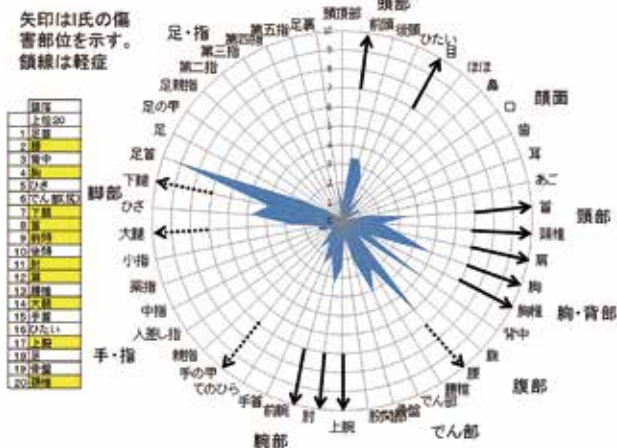


図30 墜落による傷害部位とY氏の傷害部位との対比

5. 傷害部位は事故の記憶媒体

転倒・滑落・墜落の傷害部位だけでも、これだけ異なる事故時の動き、衝撃度などが推測される。加えて、その部位から「生と死の分岐点 (Pit Schubert 著)」さえ、読み取ることができる。傷害部位は事故の動きを記録した記憶媒体なのであろう。

日本救急医学会では、高さ6m以上墜落すると多発外傷で重症化すると言われている。今後、落下エネルギーと傷害部位、そして診断記録との関係などが研究課題であらう。

6. ヘルメットの効果

ヘルメットが事故時に頭部損傷のダメージを和らげられることは自明であるが、事故時、その効果を可視化することは難しい。

図32は、滑落事故者の傷害部位をヘルメット持参グループ(事故時装着していたと仮定)と持参していないグループとの頭頸部周辺の傷害部位割合で表したものである。その結果、頭頂、前頭、後頭、頸部でヘルメットを持参していないグループの傷害部位数割合が倍近く高くなっており、ヘルメットの効果を現していると考えられる。

終わりに

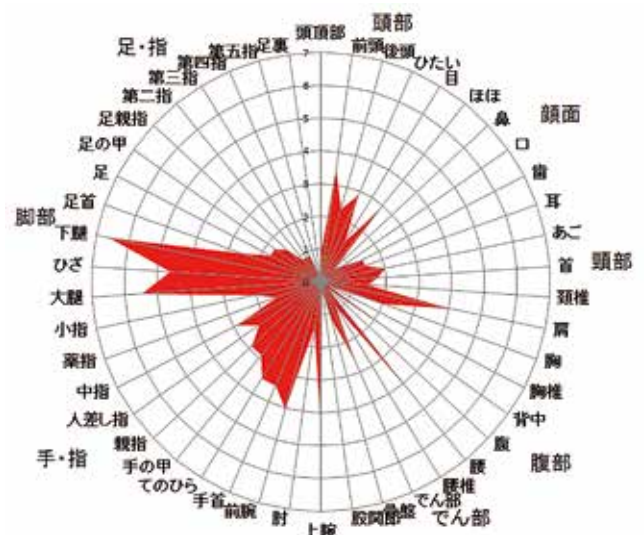
登山界は、コロナ、高齢化問題で、世代交代時代を迎え、大きな分岐点にさしかかっている。加えて、技術面でも各種スマートホンのアプリケーションソフトの登場で、自動車ナビの普及と同じ現象が登山ナビの世界にも起ころうとしている。

多くの山岳団体もこの大きな変革の波について行けないと、縮小、消滅していくかもしれない。

しかし、どのような時代になっても、安全登山を最重要事項とする考えは変わらない。その時代に合った、安全登山技術の革新を常に座右の銘とした山岳団体でありたい。

END

付図：(落石事故の傷害部位) 手指は激しく防御しようとしたのだろう。靴以外はやられる落石の恐ろしさを物語る



○日 時：令和5年3月9日(木)
14:00～16:45
○場 所：J S O S ビル3F会議室1と
Webのハイブリッド会議

○出席者：亀山、小日向、古賀各副会長、
小野寺専務理事、相良、村岡、蛭田、濱田、
赤尾、町田各常務理事、前田、山本、青山、
水村、安井、栗田、山口、六角、水島、野村、
小竹、笹生、原、小高、望月、丸山、各理事
中島、古屋、佐久間各監事
○欠席者 丸会長(病欠のため)、笹生理事、
丸山理事

1. 開 会

2. 亀山副会長挨拶

令和4年度期末、令和5年度年頭を迎え、
皆さんはご多忙と思う。役員選考委員会委員
承認、他の重要議案と報告事項が多くあるが、
円滑に議事進行を図りたいので、よろしく
お願いします。

3. 会議成立状況報告

理事数 28名中25名出席、監事数3名中3
名出席(定款第33条、定足数=15名(1/2
以上))

4. 議長選出

丸会長が議長を務めることとなっている
が(定款第32条)、病欠の為、亀山副会長が
議長を代行した。

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)。
ホストは小野寺専務理事が務める。

6. 議 題 (注. 審議順に記載)

議案第1号 議事録の承認について

令和4年度第12回理事会議事録の承認に
ついて(事前送付済)。異議なく承認された。

議案第2号 令和5年度の取り組みについて

小野寺専務理事が配布資料を基に説明し
た。変更等が必要であれば、3月までに内閣府
に提出するので、それまでにメール等送付
してほしい。来年の定時総会は、2024年6月
23日(日)の予定。5月末補助金確定、理事
会承認を経て、総会前15日以上前に理事
会を行なう規程を満たす必要があり、総会
前に資料を整備し、承認を得次第内閣府に
出せるようにする。

議案第3号 令和5年度予算案について

濱田常務理事が、配布資料を基に説明し
た。収入5億7千万円、支出5億8千万円と
なり800万円の赤字となっている。昨年と
比較し、選手強化費用(補助金)等が増え、
事業収益で1千万円増となっている。今回
コーポレートコミュニケーション(以下CC)を
追加した結果マイナス500万円となった。

補足：国体470万円は、国体委員会に割り振
るようになっている。

補足：2,500万円の内容は、令和4年度から
始まった日本スポーツ振興センター(以下
J S C)からの組織基盤強化助成金に対
応する。

補足：委託費2,579.2万円との差額79.2万
円は、J M S C A ホームページの更新費

補足：各委員会から提示した数字を前提に、
4月から執行して構わない。全体的にJ S C
から助成金の応募が多くなっている、財
政の規模が多くなっている。

議案2号と3号について採決を行い以下の
結果となり可決承認された。

反対0人、棄権0人、賛成24名

議案第4号 令和5年度役員選考委員の辞 退と追加について

小野寺専務理事が、配布資料を基に選考
委員候補者の変更提案をした。先月承認さ

れた委員のうち、1名が辞退、1名が追加と
なり、異議なく承認された。今後、立候補者
詳細情報を各委員メンバーに提供する予定
で、現在、以下のようになっている。

	定員数	立候補者数
役員	20-30名	6名
監事	3名	3名

議案第5号 海外登山奨励金交付について
小野寺専務理事が配布資料を基に説明し
た。

候補1. ペルー南東部ビルカノタ山群遠征
隊 希望40万円

候補2. Team Pre Heat(北米、アラスカ)
希望40万円

奨励金選考委員会メンバーにより評価を
まとめた。山域は目新しいものの、計画が安
易な部分もあり、申請者の研究不足を感じる
ところもあるが、奨励金選考委員会からは、
候補1が30万円、候補2が20万円を奨
励金額としている。

(意見)山行計画の質を見ると、候補1が
30万円、候補2が20万円は高い。若手
を育てたい、夢を応援するという観点
からでは、奨励金ゼロは避けたい。難し
い問題と思うが、他の登山計画の申請が
ないならば、奨励金を出したい。中間を
とって25万円、15万円はどうか。奨励金
の原資が、山岳共済会の海外山岳保険に
はいつてもらったらどうか。

上記意見の後、候補1は、20万円、候補2
は、10万円とする提案があり、その後、以
下のように承認された。

反対0人、棄権0人、賛成24人

議案第6号 登山月報記事について

小野寺専務理事が、新潟県山岳協会より
U A A 創立30周年記念大会開催について
話を聞いていないということで指摘がされ、
修正依頼がきている状況の経緯説明をした。
以下の対応をすることについて異議なく承
認された。

一月報等に訂正情報を掲載し、周知するよ
うにする。

今一回の事例に関連して、全日大会では、
来年千葉、再来年新潟と、山岳スキーでは開
催岳連としっかり連携して行っていく。

7. 報 告 (注. 報告順に記載)

報告第14号 博報堂との打合せ結果について
小野寺専務理事が、博報堂からの説明内
容を報告した。

1. 官公庁を含む行政からの入札は止めら
れた。

2. 経理や、経営責任者を含む検証委員会
(第三者委員会)が設置され、再発防止と
信頼回復に努める。

3. 現状、J M S C A に係る影響はないが、
状況が変わり次第都度連絡をJ M S C A
にする。

その後、次の意見が出た。

1. こういう問題に敏感なスポンサーもある
ので、慎重に対応していく。その過程で、
外部に情報発信することも必要。

2. 現在、スポーツライミングで博報堂に
委託している業務についても、現状内容
でよいか見極めが必要かもしれない。

3. 現在、他の協会も様子を見ているとい
うのが現状。J M S C A の見解をHPに出
す、出さないという判断は今はず、様
子を見てはどうか。

報告第1号 2月度月次報告について
相良常務理事から配布資料を基に説明した。

報告第2号 キャッシュフローについて
現状について、赤尾事務局長から説明し
た。4月、5月に行われる大会の経費支払い
で、現金がどこまで残るか不明。今後も、支
払い状況を注視していく。

報告第3号 八王子WCの大会準備状況に
ついて

村岡 S C 部長が、部材、人工とも値上がり

気味であること、J S C 向けの補助金申請中
であることを、30か国以上参加に向けて活動
していることを説明した。

報告第4号 登山普及情報交換会について
古賀副会長と町田常務理事が、配布資料
を基に説明した。事前にテーマを絞り、県か
らの意見をまとめた情報交換会にしてほし
かった。

報告第5号 S C 部からの報告

村岡 S C 部長から、配布資料を基に説明
した。

1. ウクライナ支援は、B J C、L J C のチ
ケット販売でおこない、1,321,830円(後
日1,193,688円に訂正された)が支援
額となった。Ukrainian Mountaineering
and Climbing Federation に支援金とし
て振り込む予定。

2. トルコ・シリア緊急募金：32,375円。支
援先は、選定中。

3. S C の大会について

L J C 大会結果 女子は予想通り、男子
上位メンバーが大きく替わった。C J C
(B & L) は、鳥取県、倉吉市の補助金で
約4百万円出る予定。

報告第6号 S K I M O 報告について

担当理事不在のため割愛
報告第7号 令和5年度日山協山岳共済会
事業計画について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明し
た。加入者数は減っているが、割引率46%は、
維持している。熱中症危険補償特約、天災危
険補償特約を付帯する改定を実施予定。予
算は令和4年度の実績を踏襲している。

報告第8号 国体規則改定について

常務理事会で承認されたが、詳細は配布
資料を読むように伝達された。

報告第9号 令和5年度 J O C コーチ設置
事業及び技術委員会からの報告

山本理事が、配布資料を基に説明した。

スポーツライミング6名、山岳スキー2
名で申請している。審判員・ルートセッター
資格更新会は、全国理事長会議での改善依
頼を受けて複数県(17都道府県)で開催予定。

小野寺専務理事が、以下の報告第11,12,13
号は、常務理事会の承認も経たないことを報告
するとともに、第10号も含め、内容把握のた
め配布資料を各自読むように伝えた。

報告第10号 登山部会の報告

報告第11号 委員会の常任委員について

報告第12号 山岳、及び S C コーチ認定に
ついて

報告第13号 パリ強化、ボルダー、リード選
手選考について

8. その他

1. 消費税インボイス制度の対応状況につ
いて

該当会社、業者に当件の対応方法の確認
の手紙を送付済。J M S C A は適格請求
書発行事業者として、2023年10月1日から
適格請求書を作成、発行できる体制、申請、
登録、手順を準備、確立する必要がある。

2. 八王子WCの収支について

質問：2,940万円足りないといっていたが、
今後は、どう対応する予定か。

回答：S C 全体の経費で、この分を捻出で
きるように対応した特定資金3,000万円を
使用しなくても対応可能という予算とし
たが、年初に戻ってくるかどうかは、4、
5月の支払い状況による。

3. 六角理事が、今年度末で理事を退任され
る。来月以降理事会は参加しないが、今ま
でありがとうございましたと挨拶された。

以上
令和5年3月9日 記録 赤尾 浩一

8月号より開始! かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼ

岩木山

岩木山(1,625m)は青森県最高峰であり、山容が円錐形であるため別名「津軽富士」と称されています。見る地域によって形が異なるため、それぞれの地域に「お国自慢」の岩木山が存在しています。

4月下旬には、山麓のオオヤマザクラが満開になり「世界の桜並木」と残雪のコントラストが見ものです。また、6月から7月には、雪解けとともに特産種のミチノクコザクラが紅紫色の花をつけるなど、四季折々に魅せる風光は訪れる人の心を魅了してくれます。是非、訪れてみてください。(青森県山岳連盟 会長 服部 一雄)

編集後記

1年前、コロナになり行けなかった毛勝三山に連休を利用して行ってきました。

ほとんどの記録が毛勝谷から猫又沢に日帰りなので、違うルートと思い、夏道から毛勝山に登り、稜線上で1泊して猫又沢に降りました。雪が少ないと聞いていましたがさすがは剣の北方稜線だけあり、沢の下では穴が開いている箇所もありましたが、上部の尾根は雪の稜線です。毛勝岳北方の直下は、傾斜が急ですが無事登頂し、南峰に1泊しました。真正面に剣、左側に後立、白山から富山湾まで一望できます。

稜線でゆっくり一夜を過ごし日頃の心労を和らげました。

(蛭田伸一)

トレランJAPAN
一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第650号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
(毎月1回15日発行)

発行日 令和5年5月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」

6月号
発売中

【特集】ライチョウの棲む山

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格990円(税込)

モンベルクラブ入会キャンペーン実施中!

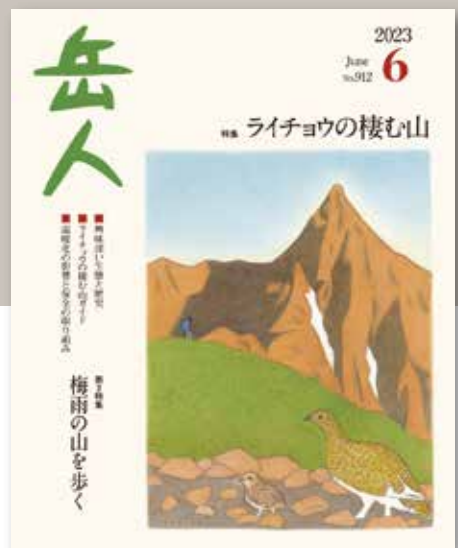
▶年間購読が断然おトクに!

年間購読通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには モンベルポイント **5,000P**プレゼント!

※2023年7月号開始の年間購読分が対象

モンベルクラブ会員さまで現在年間購読中の方は、次回継続時に5,000ポイントをプレゼントします。



年間購読特典

岳人 U.L. ショルダーバッグ



※カラーはお選びいただけません。
軽量で丈夫な生地を使用。登山中のサブバッグに!

限定デザイン

岳人カード

全国2,000カ所以上で
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応(自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからもお申込みいただけます